

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	辻村, 江太郎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.2 (1954. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19540201-0091">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19540201-0091</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雑誌 第四十七卷 第二號

九〇 (一九八)

\* イデオロギーとユートピア(創元新書) マンハイム著 樋  
俊雄譯 B40 一四〇頁 一〇〇圓 創元社

\* ソ同盟における社會主義の經濟的諸問題 2 (知識文庫)  
コンスタンチノフ他著 知識文庫刊行會譯 B6 小 一三八  
頁 八〇圓

\* 中國革命の思想(岩波新書) 竹内好他著 B40 二三〇頁  
一〇〇圓

\* 社會主義(文庫クセジュ) ブールジヤン、ランベール著  
船越章他譯 B6 小 一二八頁 一二〇圓 白水社

\* ソヴェト・コンミニズム 2 - 新しい文明 - ウエップ  
夫妻著 木村定他譯 B6 二九四頁 三〇〇圓

\* 第二インナーショナルの崩壊他十六篇(國民文庫) レニー  
ン著 吉田弘譯 A6 二七六頁 一一〇圓 國民文庫社

\* 辨證法的唯物論 山崎謙著 B6 一八四頁 一五〇圓  
みすず書房

\* 日本經濟四季報 2 (一九五三年第二期) 日本經濟調査  
會編 B6 三二六頁 二五〇圓 大月書店

\* 繼日本經濟の構圖 板垣與一編 B6 二七〇頁 二五〇圓  
如水書房

\* 勞動年鑑 一九五四年 社會文化研究所編 A5 五六三六頁  
七五〇圓 労動經濟研究所

\* 勞動經濟四季報 勞動經濟研究會編 B6 三二六頁 二五  
〇圓 勞動經濟社

\* 世界經濟年報 11 (一九五三年 第二・四半期) 世界經濟研  
究所編 B6 三〇二頁 二五〇圓 大月書店

\* 經濟白書 昭和二十八年度 經濟審議廳編 三五三頁 二〇  
七二頁 一八〇〇圓 經濟統計協會

\* 第四回統計年鑑 昭和二十七年 總理府統計局編 B5 四  
〇圓 每日新聞社

\* 北海道社會經濟圖譜 一九五三 地域經濟研究所編 B6  
四〇頁 三〇〇〇圓 石崎書店

\* 民族資本と勞農階級 (現代國民選書) 藤田敬三編 B6 二  
八八頁 二五〇圓 岩崎書店

\* 日本の財閥 1 (知識文庫) ベヴズネル著 橋本弘毅譯  
B6 小 一八七頁 九〇圓 岩崎書店

\* 日本の財閥 2 (知識文庫) ベヴズネル著 橋本弘毅譯  
B6 小 一六二頁 九〇圓 岩崎書店

\* 日本資本主義講座 1 堀江正規編 A5 三九九頁 二八  
〇圓 岩波書店

編集後記

理論經濟學の性格を規定する際にそれを理論物理學と對比するこ  
とが初步の學生のみでなく専門家のあいだにも屢々みられる。現代  
の理論物理學者が紙と鉛筆だけで研究をすすめることができると  
同様に經濟學者も充分な資料の集積のうえに立つて、それを矛盾な  
く説明しうるような理論を構成すればよいというのがそれである。  
しかし乍ら經濟現象は人間の行為であるから物理現象以上に我々に  
よく知られているという前提に立つた右の類推は途方もない誤りで  
ある。組織的な觀察、實驗の整理された資料に對して、漠然とした  
受動的な經驗の堆積が理論構成の素材として同程度の價値をもつと  
主張することはできない。強いて類推するならば一八七〇年代の價  
値論の確立はガリレイの力學對話に、エンゲルの發見はケプラーに  
先立つティヒヨブラーの觀測に對應するもので、古典力學に對應  
するだけのものが經濟學にあるか否かさえ疑わしいといえよう。手  
をよどさずにリンゴの落ちるのを見ただけで定差微分混合方程式に  
よるエレガントな體系を組もうとする安易な考え方からフィクション  
の氾濫とセオリイの貧困が生れ、(實驗計畫の樹て方を知らずむ  
やみな實態調査から同義語反覆的な結論を出す行き方とともに)素  
人をして經濟學とは標語の羅列なるかのごとく錯覺させるに到るの  
である。社會が物理學者にサイクロトロンをあてがうのなら自分達  
にも電子計算器を要求する權利と義務があることを經濟學者一般が  
認識する日の早からんことを祈つてやまない。

(辻村江太郎)

昭和二十九年一月二十五日印刷

昭和二十九年二月一日發行

第四十七卷 第二號 定價 七〇圓

送料 八圓

東京都港區芝三田慶大經濟學部内  
編集兼  
發行者 氣賀健三

東京都港區芝三田慶岡町八  
印刷所 図書印刷株式会社

川口芳太郎

豫約購讀料  
一年分 金八四〇圓(送料共  
半ヶ年分 金四二〇圓( ))

發行所

慶應義塾經濟學會

東京都港區芝三田二丁目